

講演会感想

質問を書かれた感想

- ・ 本日は学ぶことが多い講演でした。ありがとうございました。
人生会議の大切さは十分理解していますが、きっかけは難しいと思います。
どのようなタイミングがよいか教えていただきたいです。

→講演会参加者

資料としてお配りした資料の中に「人生会議（厚生労働省）」のリーフレットが一枚入っているので、`行ってきた講演会…こんなのだったんだけど…どう思う？、`自分の人生も考えさせられたんだけど…お母さん（お父さん）はどう考えてるのかな？…と思って、など、キッカケに使える一枚だと思います。

→講演会に来られていない方

日常的に、`お母さん（お父さん）今、どんな食べ物が好き？昔と好み変わった？、`昔、こんなところ行ったけど…今、生きたところある？、など、好みを確認しながら「望まれていること」に近づいていく。

`急にどうした？、と言われるときは参加した講演会の話を持ち出して話をしても…

他の感想

- ・ 家族とともに最期を迎える。特養での事例発表を聞くことが出来、改めて看取りについて考える機会を得ることができた。特養の在り方・人生史・どういう最期を迎えたいかなど短い時間でしたがいっぱい感情が湧きました。ありがとうございました。
- ・ 貴重な体験を聞くことが出来ました。本当に良かったです。ありがとうございました。
- ・ 職員さんが丁寧に看取りに向き合っておられ、ご家族との橋渡しになっておられることに感動しました。看取ることは大変かと思いますが、医療と介護を兼ね備えたところだからこそ可能かと思いました。
- ・ 看取りの事例発表をみせていただき、心がギュッとしました。ご家族への心配りのすばらしさに…すばらしいスタッフさんに感動です。一日一日の様子を伝えてもらって、私が家族なら、ここの施設なら安心できると思った。
- ・ 看取りをした後、反省会（振り返り）を開いていると聞き、今後の看取り（介護）に進まれるんだと思った。こんな施設に家族を預けたいです。ありがとうございました。
- ・ 看取りは「介護者ができるもの」の言葉に介護者のプライドを感じる。家族に対する配慮、担当介護者が弔辞を読んだり、葬儀やお別れ会の開催、最後のときを家族と迎えるなどができる場がある。うらやましい限りです。ありがとうございました。

- ・とても感動しました。介護者は本人ため、家族のために専門職としての視点から考え必要なことをする。それが本人や家族にとってベストなことだと思う。施設の中のことが分からないので、本人がどんな生活をしているのかを知ること、家族も安心することができ、介護者を信頼すると思った。ありがとうございました。
- ・いい施設の取組を知って、自分も入所したいと思った。ありがとうございました。
- ・とても感慨深い講演でした。両親のことが思い浮かび重ね合わせながらお話を聞かせていただきました。30年前父が亡くなりましたが、とても無念で悔しかったらうとずっと感じ、母にはできる限りのことをしたいと自宅で看取りました。それでも後悔は多いです。旅立つものと残されるものの両者が納得でき満足いく別れ方があるのでしょうか。今日のお話を聞きながら、力不足だった自分を再確認したような気持ちになりました。特養のあり方を考えさせられ、両親が生きていたら、こんな施設でお願いしたかった。
- ・福祉にかかわるものとして看取りに対して考え直す機会となりました。考え方も徐々に変わって、現在でも変わっていていると思いますが、自分たちも対応していけるように努めていきたいと思いました。
- ・明日があると思って生活していますが、人生…何があるか分かりません。
最後だけを切り取るのではなく、生まれてから今日まで、どう生きたいか…生活歴・人生史までも語ってもらえるように支援していきたいです。ありがとうございました。
- ・誰もが迎える最後について、あまり具体的なイメージがありませんでしたが、施設での取り事例を聞き、昔と今の違いや考え方が変わったことを知りました。施設の方のきめ細かな支援に…正直驚きました。対応されている内容に感動しました。
- ・最期をどう生きるか、看取るか、考えさせられるものでした。自分のことや家族のこと、自分の周りにいる人たちのことを考える機会になり、今日の講演で得たことを今後に生かすことができたらと思います。ありがとうございました。
- ・講演会ありがとうございました。遠方にいるご家族とも連絡を取りながら、ご家族の思いと施設の人たちの関わり、施設の中でスタッフ同士でしっかり話合っているからこそ、小さな変化もみつけ、家族に伝えることで安心につながった。
その人の人柄が伝わる二つ目の事例で印象的だったのは、一年経ったお母さまの死の受け入れができていなかったこと。人によって違いはあるけれど、娘さまは、この一年頑張っていて過ごして来られたのだと思う。アセスメントの大切さ、グリーフケアの大切さを感じました。
家で最期を迎えたい、希望は家でも現実には病院だった。一日でも長く生きることが本当にはいい事なのか…最期を満足できるのか、最期の時家族がいること、参加できることが大切であると学び、心のこもった事例と話しを紹介していただきありがとうございました。

いました。

- ・遠方におられるご家族へ週一で連絡したり、LINE で動画を送ったり、自室で寂しくなることがないようにベッドごとみんながいるところにでてきて、声掛けをしていくことは、本人にとって嬉しいことだと思います。現状の取り組みがよく分かりました。ご本人の人生史を作ったり、親子写真を撮る取り組みもとてもいいと思いました。食べられなくなったら PEG という常識だったころから、そうではない方向へ変って進んでいること…平穏死について、もっと学んでいきたいと思います。

ありがとうございました。

- ・以前、野桑の里での石飛先生のお話を聞かせていただいたことがあります。その時より看取り、自然死というものを考える機会がよくありました。特養や施設での看取り、自宅での看取り…最近のご家族の理解も難しくなったと感じるところです。ご家族の中でも考えの違いがあったりもしながら、感動するエピソードのような看取りは多くはなく…難しく現実も見るところで、医療が進んできたことで尊厳死、平穏死を受入れられる世の中になるのか?…と考えるところでした。
- ・事例発表を通して、一人ひとりのご利用者に丁寧に、チームでケアをしておられるな…と感じました。日々の業務の忙しさで、後回しになってしまいがちですが…真摯に受け止めていきたいと思います。「看取り」について再度考えさせられました。
- ・事例二件を通して具体的なイメージが付き、老衰は医療ではなく介護の分野であるということが理解でき、共感しました。ありがとうございました。
- ・自分の最後について考えさせられました。事例を聞きながら施設での最後もいいものだと思います。私自身は家で…と想っていましたが、施設での生活がイメージでき息子や娘に迷惑とかかけなくてすむ…とか想い、考えさせられました。
- ・私の両親も 70 代後半になり、今日この一巻半の内容で看取りについて沢山考えさせられました。長寿社会になり親も年老いてくると「認知症」になり、自己判断ができなくなるかもしれません。そうなる前に今日話しにでていた「人生会議」というのはしておきたいです。両親が人生の最期を迎えるまで、どのように過ごしたいと思っているか…知っておくことは「いい看取り」につながれると思い、今日聞いた話を業務でもプライベートでも生かしたいです。ありがとうございました。
- ・事例発表を通して、外側から見ているだけでは分からないスタッフと利用者との関わりが分かり、スタッフの方々がいつも心を尽くして介護に取り組まれているのだと感じた。看取る時期になればご本人だけではなく、ご家族のことも考え、心情を汲み取り、ご本人とご家族の関係性を大切にされていて、大切な取組だと思いました。
- ・どう最期を迎えたいか、最期の時を自分で決められないことが多いなら、自分の周囲

- と想っていることを共有しておくことが大切だと思いました。介護だけでは理想的な看取りにはならず、医療との連携が重要なんだと分かりました。学びの多かったです。
- ・ 事例を通して心温まる実践現場にふれることができました。介護の現場で頑張っておられる皆さまにエールを送ります。
 - ・ 自分自身が歳を重ねるにつれて「最後はこうしてもらいたい」と考えることがしばしばあります。最後が近づいている一人ひとりにはいろんな思いがある。その家族にもいろんな思いがある。悔いのないそれぞれの思いに近づいた看取りになるように心掛けたい。
 - ・ どこで最期を迎えるか、どういう風に迎えるのか…家族との話し合いが大切だということを改めて感じました。
 - ・ 私は看取りが出来なかった経験と看取りが出来た経験をしました。遠くの病院では看取りはできず、近くの特養では看取りができました。状況的には致し方のない事情はありましたが、本人にとっては…やはり住み慣れた場所での看取りができたことに安どの気持ちを覚えたことを記憶しています。このときは、家族・親族が集まり皆で最期を看取ることができました。今日はありがとうございました。
 - ・ 上郡町も人口減少が続き、心配なことが増えてきます。自宅での介護も大変になり、デイサービスや施設を利用させてもらい、少しでも皆が幸せで生きて行けるように共助が大切だと思います。看取り介護は誰もが通る道、本人も側にいる者も…互いに命の大切さを感じて、受け継いで行きたいと思います。
 - ・ 今日の話をお聞きして、家族に代わってのスタッフの人たちの仕事、本当に大変だと思います…にも関わらずやさしく最後まで、本当に頭が下がります。平均寿命が高い現在で仕方ないと思うものの…やはり最後まで家で過ごせるように、日々の生活や食事などには気を付けていきたいと思います。今日話を参考に自分のことを考えます。
 - ・ 現場の人たちが、いかに利用者を大切にしているのかがよく分かりました。延命治療はいらないと思いました。自分にもやがてくる最期を受入れられうように心掛けたいです。三年間寝たきりの母を看病したときはあり…当時を思い出しました。当時はなかなか優しい気持ちになれなかったことも思い出しました。
 - ・ いいお話をお聞きして、介護者としての心構え、利用者さんとのコミュニケーション信頼関係をもつことの大切であるように思いました。
 - ・ いつか親は施設でお世話になると思いお話を聞きに来ました。施設は、どこも人手不足とお聞きします。職員の方の身体が壊れないことを願います。
 - ・ 企画内容が良かったので、もっと沢山の方に聞いてもらったら良かったのでは…